

患者が疾患や治療のリスクについて正しく理解する事は容易ではなく、特に骨粗鬆症においては患者が自身の骨折リスクが高いことを認識できていない場合や骨の健康に関心を持っていない場合がよく見られます。その結果、骨粗鬆症治療を開始できずいたり、服薬アドヒアランスが良好でない状況が多いのが現状です。一方で、患者は非常に稀な発生確率でのみ起こる重大な副作用の方により敏感になってしまい、治療がうまく進まないケースも多く存在します。

このツールは、国際骨粗鬆症財団(IOF)および米国骨粗鬆症財団(BHOFF)によって開発され、医師と患者間での骨粗鬆症及び骨折のリスクにおける話し合いを円滑にし、骨粗鬆症の治療開始にあたってのメリットと副作用のバランスについての情報共有をより効果的に行うことを目的としています。医師と患者間でのコミュニケーションツールとして使用することを前提とし、各項目についての簡単な説明を以下に示します。

## ツールの使い方

### 1ページ目

#### スクリーニング用質問アルゴリズム

医師と患者と一緒にフローチャートを使って一段階目のリスク評価を行います。記載されたリンク先の外部Webサイトでは具体的な骨折リスクを算出し、今後の治療に関する推奨事項を確認する事ができます。骨粗鬆症を原因とする骨折(脆弱性骨折)の危険因子のリスト(右側の項目)は、患者と一緒に該当する項目を確認し、リスク評価及び疾患・治療に対する患者の理解を深めるために使用します。

#### 私の骨折リスクは何を意味しますか？(左下側の項目)

この項目は、FRAXを使って計算された今後10年間における患者毎の骨折発生率をわかりやすく図解化するためのものです。主要な骨粗鬆症性骨折発生率または大腿骨近位部骨折発生率のいずれかの計算値を使用し、骨折発生率に該当する分の骨の数(左下から数える)を塗りつぶす事により、患者自身が骨折のリスクを視覚化できるようになっています。100個分の骨は骨折リスク100%に該当するという解釈をしてください。

例:FRAXによる主要な骨粗鬆症性骨折発生率の計算値が20%の場合:20個分の骨を塗りつぶす

#### 骨吸収抑制剤による稀な副作用リスク(右下側の項目)

同様に副作用に関する絶対リスクを計算した場合、骨吸収抑制剤療法による深刻な副作用(顎骨壊死または非定型大腿骨骨折)の発現頻度は患者自身の現在の骨折リスクに比べて非常に低いことを示すために用います。この図では、骨の部分に既に陰影が付けられており、どちらか一方の副作用発現率が0.001%であることを左側の項目と比較しながら確認できるようになっており、特別に塗りつぶし等を加える必要はありません。

### 2ページ目

#### 重要事項

患者によりわかりやすく治療の重要性について説明するための項目です。ここに記載されている情報を患者と一緒に確認することにより、一般的な骨粗鬆症治療において、治療のベネフィットが副作用発現率よりもはるかに上回っている点を正しく理解してもらうことを目的としています。

#### 骨吸収抑制剤療法による骨折の相対リスク減少率(左下側の項目)

骨吸収抑制剤を用いた治療により骨粗鬆症をコントロールした場合の最終的な骨折の絶対リスクを示すために使用します。この項目は、FRAXによる主要な骨粗鬆症性骨折のリスク値に対してより簡便に使えるようになっており、一般的に薬物治療により各種骨折リスクの値が半分に減少する事を表しています(骨折の相対リスクが50%減少)。治療開始前のリスクの値は前述の1ページ目の項目に記録し、10年間における骨折の絶対リスクに相当する数の骨を塗りつぶして使用します。(骨1個分の塗りつぶしが骨折リスク1%に相当)。

2ページ目にある骨折の相対リスク減少度の項目は、上記1ページ目の項目で塗りつぶした骨の数の半分の数にあたる骨を塗りつぶすことにより、骨折リスクを50%減少させるという事を示すのに使います。

FRAXを用いて算出された患者の主要骨粗鬆症性骨折リスクが20%である場合:一般的に、治療により骨折リスクが50%低下する(半分に低下する)と考えられ、したがって治療後の骨折リスクは10%と計算できるため、この場合10個分の骨を塗りつぶすことになります。FRAXでは直接大腿骨近位部骨折リスクを算出できるため、この項目で示されている方法を適用して治療による大腿骨近位部骨折の相対リスクの減少度を算出する事が可能です(治療後の大腿骨近位部骨折の相対リスクは、FRAXの大腿骨近位部骨折リスク計算値から40%分低下、つまり相対リスクは元の数値の0.6倍になります)。

各骨折別の減少率の算出については、枠内に表記されている椎体、大腿骨近位部およびその他の部位における骨折毎の相対リスク減少率(平均値)を参考にしてください。

**その他の項目: 患者の服薬アドヒアランスを高めるためには、治療開始前から以下の項目についてもきちんと確認しておくことが重要です。**

- 比較的によくみられる副作用
- 稀な副作用
- 骨折による影響

本ツールは、医師が骨粗鬆症治療に関するベネフィットや注意点を患者により効果的に提供するための目的で開発されたものです。